

図3 麻疹ワクチン未接種率

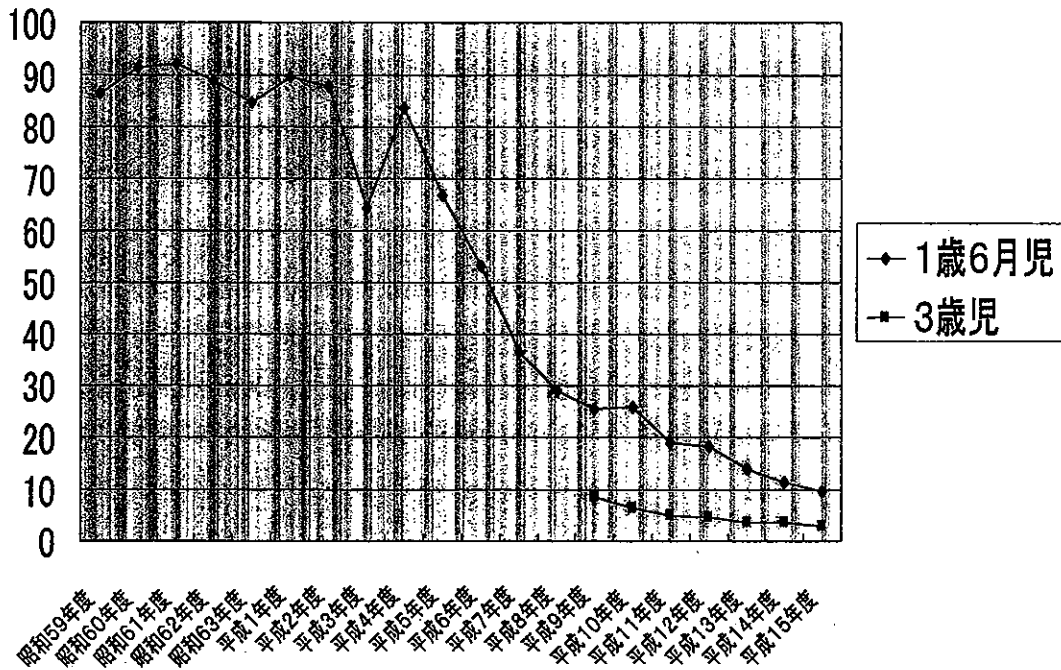


図4 麻疹患者の年齢分布(昭和59年度～平成5年度)

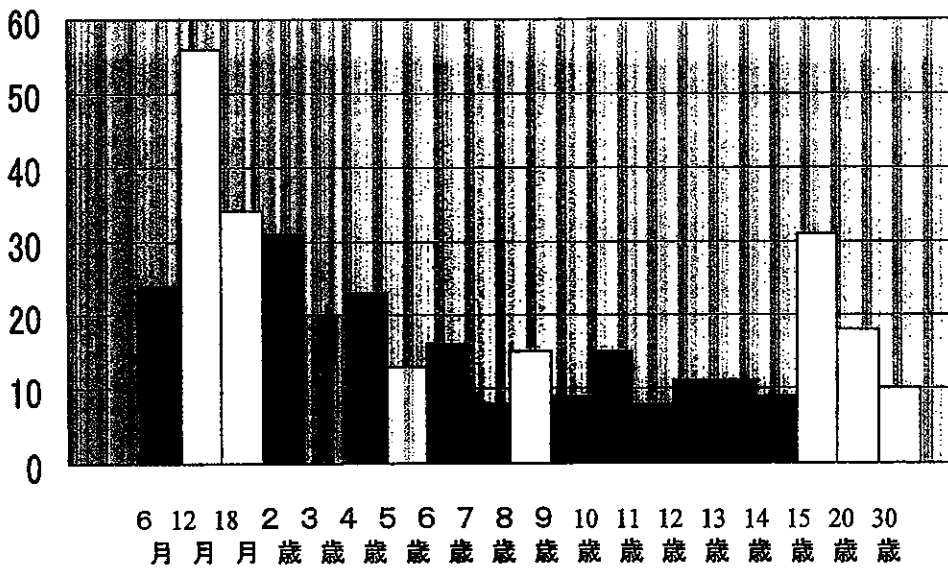


図5 麻疹患者の年齢分布(平成6年度~15年度)

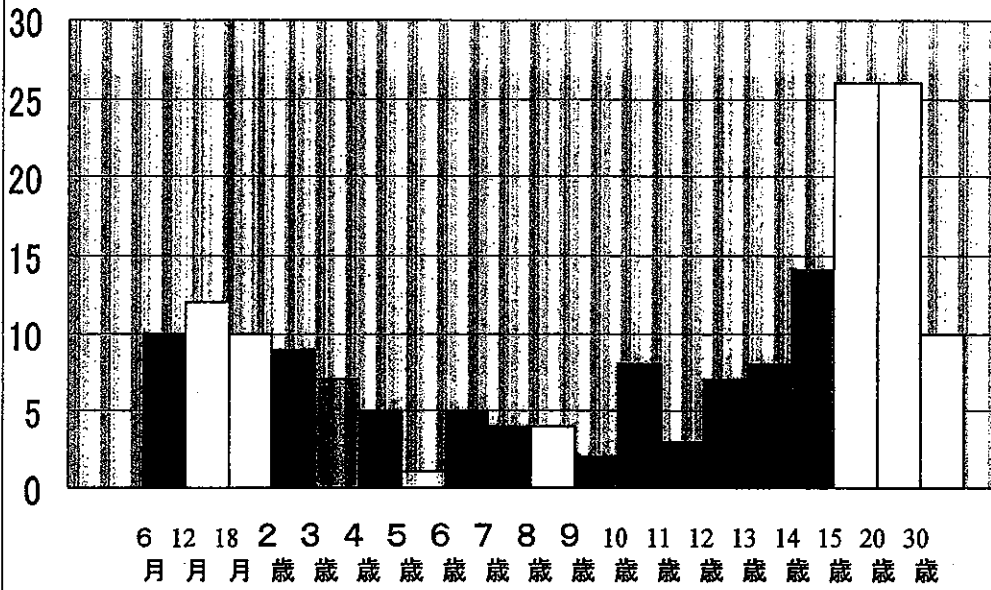
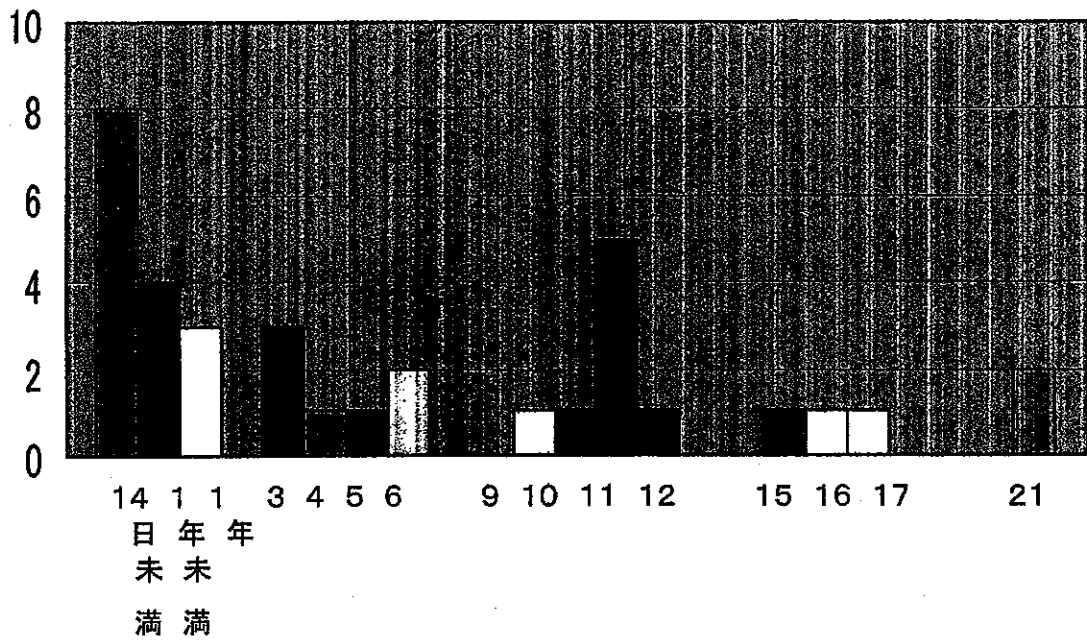


図6 ワクチン接種から発症までの期間



## 麻疹ワクチン年齢別接種数

井手 邦彦 (井手小児科)

麻疹ワクチンの接種は 12～18ヶ月を接種の標準年齢としていたが、12～15ヶ月に改正され、1才の誕生日を過ぎたらなるべく早く接種することとした。

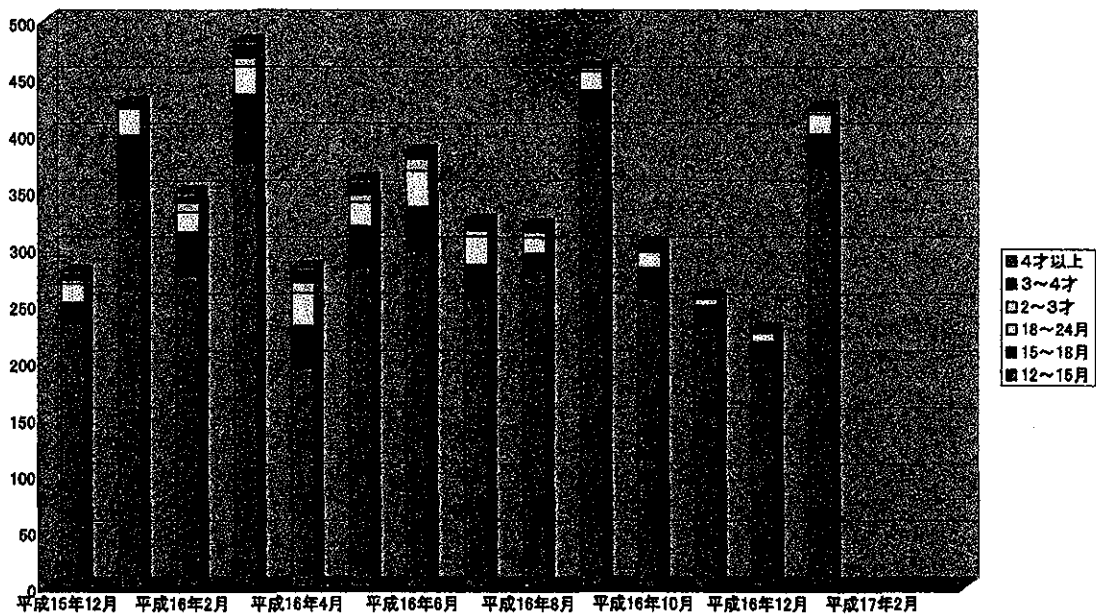
世田谷区医師会における平成15年12月から平成17年1月までの年齢別の接種数を表と図に示す。

この調査期間での接種者数の合計は4881名で、その間の該当者数は4955名、単純に計算すれば接種率は98.51%である。

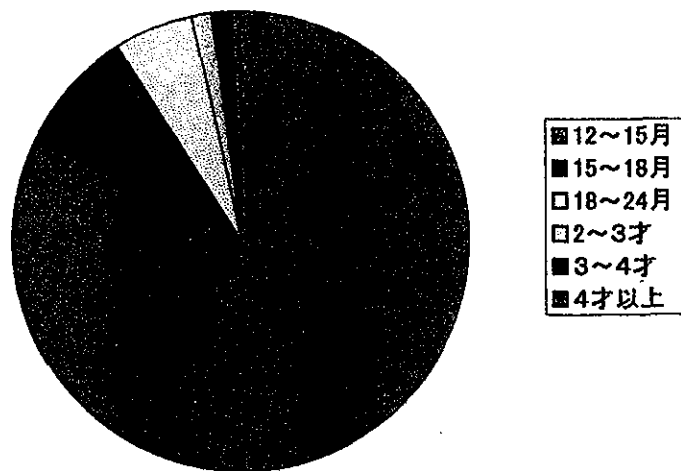
年齢別に検討すると 12～15ヶ月の接種数は4007名で 該当者数(4955)の80.87%、12～18月で89.85%、12～24月で95.24%となり、2才以上の接種者は5%以下の成績であった。

以上のように 年齢別の接種数の結果はかなり好成績であり、医師会員の努力によるものではあるが、母親の関心と知識の高さが感じられる。

麻疹ワクチン年齢別接種数



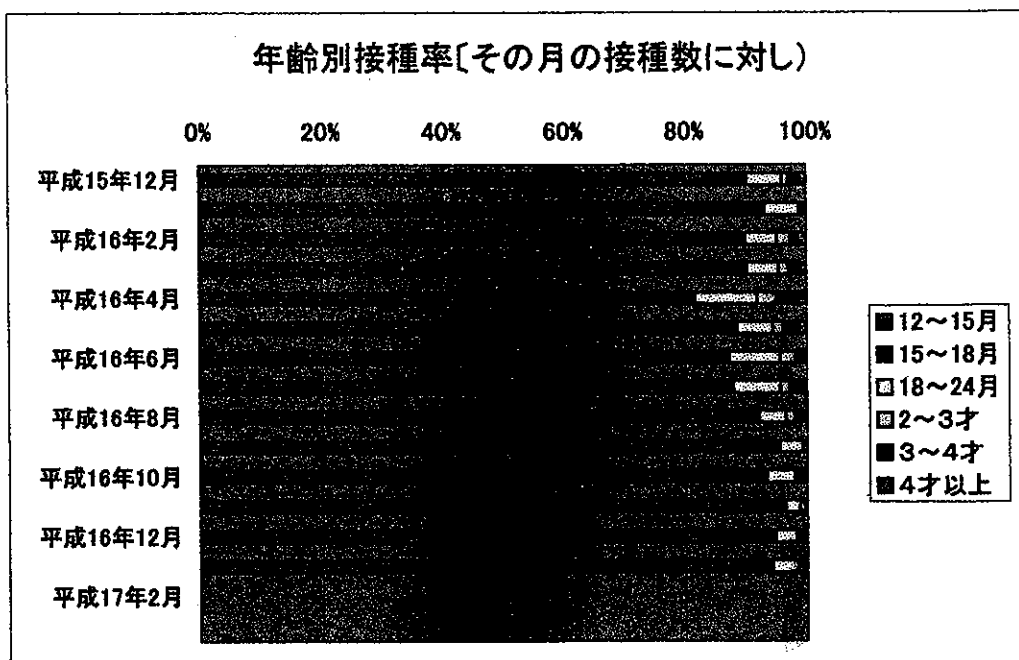
麻疹ワクチン年齢別接種率



## 麻疹ワクチン:年齢別接種数

世田谷区医師会

	12~15月	15~18月	18~24月	2~3才	3~4才	4才以上	計
平成15年12月	233	19	16	3	5	3	279
平成16年1月	344	55	24	2	2	1	428
平成16年2月	275	39	18	8	4	5	349
平成16年3月	375	60	25	8	10	4	482
平成16年4月	194	37	29	9	10	4	283
平成16年5月	282	37	21	6	10	4	360
平成16年6月	297	39	32	10	5	2	385
平成16年7月	256	29	25	5	8	1	324
平成16年8月	280	15	14	5	5	1	320
平成16年9月	413	25	17	3	0	0	458
平成16年10月	255	27	14	1	3	2	302
平成16年11月	233	16	6	2	1	0	258
平成16年12月	199	18	8	1	3	0	229
平成17年1月	371	29	18	3	2	1	424
平成17年2月							0
平成17年3月							0
計	4007	445	267	66	68	28	4881
						(対象者数)	4955
	80.87%	8.98%	5.39%	1.33%	1.37%	0.57%	98.51%



# 全数把握による予防接種率調査

福井県小児科医会

福井県小児科医会では全数把握という方法で予防接種率を調査したので報告する。

## 方法・対象

全数把握による予防接種率算定とは、岡藤らが永年姫路で実施してきたものと同じで、予防接種台帳に基いて各ワクチンごとに年齢層別の接種済者数を集計するだけである。特別な計算方法も不要で、予防接種台帳が電算化されている市町村なら、いつでも短時間のうちに集計可能である。

2003年3月末にパイロットスタディとして24市町村で実施したところ算定可能であったので、2004年3月末に県下全(35)市町村で実施した。実施にあたっては福井県健康増進課のご後援をいただいた。

## 結果

得られた集計結果の中から、敦賀市のワクチン別・年齢別接種済者数を表1に示した。また35市町村の麻疹の接種済者率を表2に示した。

表1.

敦賀市予防接種済みの人数

平成16年3月31日現在

	人数	BCG	1才	2才	3歳1	3歳2	3歳3	4歳	麻疹	風疹	1日	2日	16歳
0歳児	621	323	142	0	177	134	82	0	0	0	0	0	0
1歳児	695	690	647	390	626	596	536	57	511	336	0	0	0
2歳児	663	633	647	618	624	604	577	428	623	543	0	0	0
3歳児	682	637	688	647	643	624	593	532	636	570	47	41	0
4歳児	707	672	688	675	668	643	611	581	638	569	585	497	30
5歳児	739	705	725	723	713	695	659	625	684	633	647	623	532
6歳児	723	679	713	698	679	662	601	552	667	603	621	606	351
7歳児	717	682	701	689	661	673	627	614	625	614	634	626	591

表2.

麻疹

市町村	福井市	敦賀市	小浜市	南越前市	越前市	金沢市	石川郡	白山市	福井県	大浜町	大野町	南越前町	小浜町	南山市	ツルギ	上中町	河野町	藤岡町
(118)	(228)	(223)	(83)	(262)	(129)	( )	(48)	(20)	(118)	(44)	(206)	(213)	( )	(82)	(13)	( )	( )	
0歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1歳	69	69	70	100	23	81	76	59	74	47	59	75	76	86	100	100	100	
2歳	75	91	85	100	34	34	81	81	89	71	84	82	84	89	100	100	100	
3歳	63	83	100	100	36	95	74	90	92	89	89	91	96	100	100	100	100	
4歳	68	90	100	100	33	93	76	95	92	89	81	96	96	100	100	100	100	
5歳	60	88	98	100	31	97	71	84	93	100	91	97	99	96	100	100	100	
6歳	62	85	100	100	35	96	79	85	92	100	86	94	99	94	100	100	100	
7歳	76	77	100	100	35	95	76	90	91	100	84	93	99	99	100	100	100	

市町村	福井市	敦賀市	小浜市	南越前市	越前市	金沢市	石川郡	白山市	福井県	大浜町	大野町	南越前町	小浜町	南山市	ツルギ	上中町	河野町	藤岡町
(118)	(228)	(223)	(83)	(262)	(129)	( )	(48)	(20)	(118)	(44)	(206)	(213)	( )	(82)	(13)	( )	( )	
0歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1歳	75	79	58	75	74	0	53	71	58	81	78	75	77	83	100	100	100	
2歳	84	91	87	96	80	84	84	89	88	84	84	97	100	85	100	100	100	
3歳	68	94	96	78	95	83	100	92	89	89	84	95	96	100	100	100	100	
4歳	68	94	96	79	95	91	100	99	92	89	93	97	95	97	100	100	100	
5歳	64	90	96	79	93	90	100	95	91	84	92	91	99	96	100	100	100	
6歳	69	93	100	76	93	92	100	97	91	87	88	98	96	93	100	100	100	
7歳	84	89	97	82	92	91	100	99	90	89	86	100	90	95	100	100	100	

## 考 察

従来さまざまな予防接種率算定が試みられているが、すべてサンプル抽出と推計に基いている。これらの方法はおおよその接種率を知るには役に立つが、推計ゆえの誤差範囲を伴うことや、3歳児健診を利用したものでは3歳までの状況しかわからない、などの短所がある。

私どもが実施した全数把握法では、0歳から7歳までの年齢層ごとに、或る予防接種を何名が済ませているかが実数で把握できる。すなわち、何名が未接種なのか（それは誰か）が把握できるということである。

接種率がある程度高くなってくると、それをさらに90%、95%へと上げるためには不特定多数に対する呼びかけでは効果は見込めず、未接種者に直接勧奨することが必要になる。全数把握ができるシステムが稼働していればこれは容易で、実際県下の鯖江市では4歳の麻疹・風疹未接種者にダイレクトメールを郵送している。

全数把握という算定方法は単に予防接種台帳を集計したもので、難しいものではない。もしこの算定ができない市町村があれば、予防接種法に定められた予防接種台帳の管理が正しく行われていない、ということになる。福井市では算定作業の過程で台帳管理が正確さを欠いていたことがわかり、接種率算定を断念した。行政上の不備に行政サイド自身が気付いたことは、今回の調査の予期せぬ効果であったと考えている。

福井県小児科医会は今後もこの調査を継続し、県下全市町村でもれなく全数把握ができる体制を目指したい。またこの全数把握という体制が日本全国で行われ、接種率の向上に資することができるよう願うものである。

## 謝 辞

この調査を進めるにあたっては福井県健康増進課（得津馨課長）の絶大なご支援をいただいた。市町村にこの調査に協力されたい旨の通達を発し、調査票の配布、回収にも関与していただいた。このようなご支援があったからこそ、市町村の一層の協力が得られたと考えている。行政との密接な連携こそが予防接種率向上のキーポイントであると改めて認識した次第である。この場を借りて心から御礼申し上げます。

（文責・橋本剛太郎）

## 足立区における予防接種率向上対策

和田 紀之、黒岩 京子、肥田有紀子、三原 章、五味田 稔、坂口 好和、  
荒井伊久美、細井 京子、矢作 信男、増田 京子、今井 隆司、中川 秋美、  
吉川 泉（足立区予防接種率向上対策委員会）

### はじめに

予防接種は感染対策上、非常に重要であり、感染症の発生状況、ワクチンの進歩、社会の意識などを反映し、それぞれの時代に合わせて変化してきた。1948年に制定された予防接種法も現在までに数回の改正が行われ、平成6年の改正では、接種は義務から努力義務へ、集団接種から予診重視の個別接種の方向へ大きく変化した。このことにより、保護者の予防接種に対する意識が変化し、予防接種のことをよく知らない保護者や予防接種に必要性を感じない保護者がでてきた。その結果、予防接種を受けていない子どもたちが予防接種で防げる感染症に罹患してしまい、重症化したり、命を落としてしまう例が依然として存在する。

足立区では、小児感染症の専門医師、保育園・幼稚園・小中学校の教職員、保健所職員がそれぞれの立場から、予防接種について共通の認識をもち、予防接種率向上対策について検討するため、予防接種率向上対策委員会を設置した。

### 足立区の定期予防接種の現状

#### 1. 実施方法

定期予防接種の実施方法を資料1に示す。

#### 2. 定期予防接種の実施率

平成12年から平成15年の定期予防接種実施表から、乳幼児期に接種する麻しんや風しん、三種混合Ⅰ期、日本脳炎Ⅰ期では90%以上という非常に高い実施率であることがわかる。一方、学童期に接種する二種混合、日本脳炎Ⅱ期、Ⅲ期では実施率が50%前後と低い実施率にとどまっている（資料2.3）。

また、平成13年7月から平成16年4月の各月での1歳6ヵ月児健診で麻しん予防接種者数を聞き取りにより集計し、接種率を調べたところ、80%前後で推移していた（資料4）。

#### 3. 足立区が行っている予防接種啓発活動

現在、個別接種の予防接種については予診票と一緒に各疾患について記載された啓発パンフレットを郵送配布している。また、一般区民向けに年2回、広報によるPRを実施するとともに、保育園・幼稚園入園時や就学時健診時、小中学校で予防接種啓発の



チラシを配布している。

#### 予防接種率向上対策の目標および具体策

足立区の予防接種の現状を踏まえ、検討した結果、3つの目標とその具体策を紹介する。

##### <目標1> 1歳6ヵ月児健診での麻しんの予防接種率を95%以上にする

麻しんの標準的接種年齢は12～15ヵ月であるが、1歳6ヵ月健診時、つまり18ヵ月での接種完了している子は80%前後であった。予防接種を最も効果的に行うには、この標準接種期間である12～15ヵ月以内に接種を完了することが必要である。そのため、1歳6ヵ月児健診時での接種率を95%以上にすることを目標にした。

#### 《具体策》

##### ① 1歳の誕生日前に麻しん予診票を送付

現在、法定接種年齢開始日（1歳の誕生日）前に接種しないようにとの配慮から、麻しんの予診票は1歳の誕生日以降、その月または翌月に郵送している。これを改善し、1歳の誕生日から接種できるよう平成17年度から予診票の郵送時期を早めていく。

##### ② 予診接種の調査と接種勧奨の徹底

保健所では、既に1歳6ヵ月児健診時に保健師が麻しん予防接種歴の有無を問診し、接種していない場合には、接種勧奨を行っている。また、保育園でも入園時に予防接種歴チェックし、接種勧奨を行っている。今後さらにこの接種勧奨を徹底する。

##### ③ 個別接種勧奨通知

平成17年度から足立区新保健衛生システムが稼働し、予防接種未接種者を把握できるようになる。このシステムを活用し、1歳6ヵ月時点で麻しん予防接種未接種者に対し個別接種勧奨通知を郵送し、早期接種を勧奨する（資料5）。

##### <目標2> 7歳6ヵ月までに接種完了すべき予防接種の接種率を上昇させる

乳幼児の法定年齢機期限である7歳6ヵ月までに接種完了すべき予防接種をきちんと接種することを目標とする。

#### 《具体策》

##### ① 個別接種勧奨通知

麻しんと同様に、7歳6ヵ月までに接種完了すべき予防接種を完了していない子どもに、6歳の時に予防接種歴を個別通知し、接種勧奨を行う（資料6）。

##### ② 接種歴の調査と接種勧奨

小学校では、就学時健診時に予防接種歴を調査し、予防接種歴を調査し、予防接種勧奨チラシを配布しているが、今後とも関係機関が連携し、効果的に接種勧奨を勧めていく。

### <目標 3> 学童期の二種混合、日本脳炎Ⅱ期、Ⅲ期の接種率を上昇させる

集団接種から個別接種に制度が変わり、学童期に接種する二種混合、日本脳炎Ⅱ期、Ⅲ期の実施率は 50%以下と低くなっている。この原因としては、乳幼児期とは異なり、保護者の予防接種の必要性に対する意識が低下していることが考えられる。

#### 《具体策》

##### ① 予防接種の必要性の再認識

##### ② 国への要望

中学生への予防接種を行う場合、保護者が同伴することは難しく、接種前に保護者に連絡し、予診結果を説明することは煩雑で現実的ではない。今後、あらゆる機会を利用して、同意書があれば接種できるように国に要望してゆく。

#### 今後に向けての予防接種率向上対策案

##### ① 啓発活動の推進

予防接種に関する正確な知識がないことで予防接種を受けさせない保護者も多いと考えられることから、足立区医師会等の協力を得て、より効果的な予防接種啓発教材として、予防接種啓発ビデオなどを作成することとした。

##### ② 予防接種講演会の開催

足立区医師会の協力のもと、保護者や保育園・幼稚園・小中学校の教職員に対する意識を高めるため、予防接種や小児感染症についての講演会を開催する。

##### ③ 土曜日予防接種外来

平日、予防接種に来られない人に接種の機会を提供するため、足立区医師会予防接種委員会による土曜日予防接種外来を月 1 回程度開設する。土曜日予防接種外来では、予防接種相談も行い、専門医師によるアドバイスが受けられるようにする。

#### まとめ

足立区予防接種率向上対策委員会では、あらゆる職種の委員が、それぞれの立場から予防接種率向上について検討し、以上のような具体策と対策案がまとめられた。今後は、この具体策と対策案が速やかに実行に移されるよう、評価・検証することが重要である。

予防接種制度は、繰り返し見直しがされており、近い将来、不活化ポリオワクチンや麻しん・風しん混合ワクチンが新たに導入される可能性がある。足立区予防接種率向上対策委員会は、予防接種制度が変更した際もこの連携を生かして、速やかに情報を共有し、予防接種率向上に積極的に取り組み、足立区の子どもたちの健康に寄与していくつもりである。

資料 1 足立区定期予防接種の実施について

足立区定期予防接種の実施について

平成 16 年度

種類	通知方法	接種回数	実施方法	法定年齢	標準的接種年齢
BCG	乳児（3～4か月児）健診の通知に同封しています。	1回	乳児（3～4か月児）健診時に各保健総合センターで実施	出生から4歳の前日まで	出生から4歳の前日まで
小児ポロ（ポリオ）	毎年4月と10月に自宅へ予診票を郵送しています。 （1回目）生後5か月～10か月児 （2回目）生後11か月～18か月児	2回	毎年4月、10月に、小学校や各保健総合センターで実施	生後3か月から7歳6か月の前日まで	生後3～18月
三種混合（DPT） ジフテリア 百日咳 破傷風	生後6か月に達する月の翌月に予診票を郵送しています。	（I期初回） 3～8週間の間隔で3回 （I期追加） 3回目終了後、1年から1年6か月の間に1回 （合計4回）	指定医療機関で個別に接種	生後3か月から7歳6か月の前日まで	I期初回 生後3～12月  I期追加 1期初回接種（3回）後12～18月
麻疹（はしか）	1歳の誕生日以降その月または翌月に予診票を郵送しています。	1回	指定医療機関で個別に接種	1歳から7歳6か月の前日まで	生後12～15月
麻疹（はしか） 百日咳	1歳6か月の誕生日の翌月に予診票を郵送しています。	1回	指定医療機関で個別に接種	1歳から7歳6か月の前日まで	生後12～36月
日本脳炎（JE） （1期）	3歳の誕生日の翌月に予診票を郵送しています。	（I期初回） 1～4週間の間隔で2回 （I期追加） 2回目終了後、1年たって1回 （合計3回）	指定医療機関で個別に接種	6か月から7歳6か月の前日まで	I期初回 3歳  I期追加 4歳
三種混合（DT） ジフテリア 破傷風	12歳の誕生日の翌月に予診票を郵送しています。	1回	指定医療機関で個別に接種	11歳から13歳の誕生日の前日まで	小学校6年（12歳）
日本脳炎（JE） （Ⅱ期）	10歳の誕生日の翌月に予診票を郵送しています。	1回	指定医療機関で個別に接種	9歳から13歳の誕生日の前日まで	小学校4年（9歳）
日本脳炎（JE） （Ⅲ期）	14歳の誕生日の翌月に予診票を郵送しています。	1回	指定医療機関で個別に接種	12歳から16歳の誕生日の前日まで	中学校2年（14歳）

資料2 定期予防接種実施率表

種別	平成12年度				平成13年度				平成14年度				平成15年度				
	対象人員	接種完了者	実施率	千診のみ	対象人員	接種完了者	実施率	千診のみ	対象人員	接種完了者	実施率	千診のみ	対象人員	接種完了者	実施率	千診のみ	
ジフテリア 百日咳 破傷風	第1期初回第1回	5,957	5,863	97.7%	44	5,792	5,583	96.6%	14	5,840	5,634	96.5%	14	5,643	5,486	97.2%	7
	第2回	5,957	5,498	92.3%	41	5,792	5,444	94.0%	23	5,840	5,592	95.8%	12	5,643	5,480	97.1%	14
	第3回	5,957	5,373	90.2%	38	5,792	5,291	91.4%	13	5,840	5,397	92.4%	16	5,643	5,348	94.8%	12
ジフテリア・破傷風	第1期追加	5,872	5,111	87.0%	22	5,957	4,879	81.9%	10	5,792	4,858	83.9%	7	5,840	4,861	83.2%	8
	第II期	5,672	2,536	44.7%	9	5,439	2,572	47.3%	5	5,398	2,458	45.5%	1	5,572	2,528	45.4%	6
ポリオ	第1回	5,904	5,523	93.5%	177	5,860	5,635	96.2%	185	5,802	5,581	96.2%	116	5,784	5,444	94.1%	130
	第2回	5,874	5,255	89.5%	114	5,857	5,414	92.4%	144	5,807	5,407	93.1%	108	5,733	5,206	90.8%	124
麻疹		5,890	5,461	92.7%	39	5,901	5,769	97.8%	21	5,803	5,520	95.1%	27	5,725	5,529	96.6%	15
	幼児	5,827	5,312	91.2%	29	5,912	5,377	91.0%	11	5,774	5,180	89.7%	11	5,744	5,305	92.4%	8
風疹	小学生																
	中学生	5,522	1,727	31.3%	8	2,807	1,803		4	1,204	968				193		0
日本脳炎	経過措置																
	第1期初回第1回	5,806	4,966	85.5%	23	5,883	5,169	87.9%	17	5,744	4,873	84.8%	9	5,813	5,264	90.5%	10
	第2回	5,806	4,878	84.0%	22	5,883	4,915	83.5%	12	5,744	4,863	84.7%	8	5,813	5,052	86.9%	8
	第1期追加	5,957	3,806	63.9%	23	5,792	3,850	66.5%	13	5,883	4,081	69.4%	11	5,744	4,111	71.6%	9
	第II期	5,405	2,850	52.7%	8	5,591	3,033	54.2%	5	5,526	2,949	53.4%	4	5,559	2,946	53.0%	3
	第III期	5,522	2,191	39.7%	6	5,508	2,055	37.3%	8	5,678	2,025	35.7%	0	5,432	2,066	38.0%	1
第III期	5,522	2,191	39.7%	6	5,509	2,055	37.3%	8	5,678	2,025	35.7%	0	5,432	2,066	38.0%	1	

(注)接種率は、年度内の接種者数を年度の接種対象者で除いている。接種者には過年度の接種者も含まれるため、100%を超える場合もある。

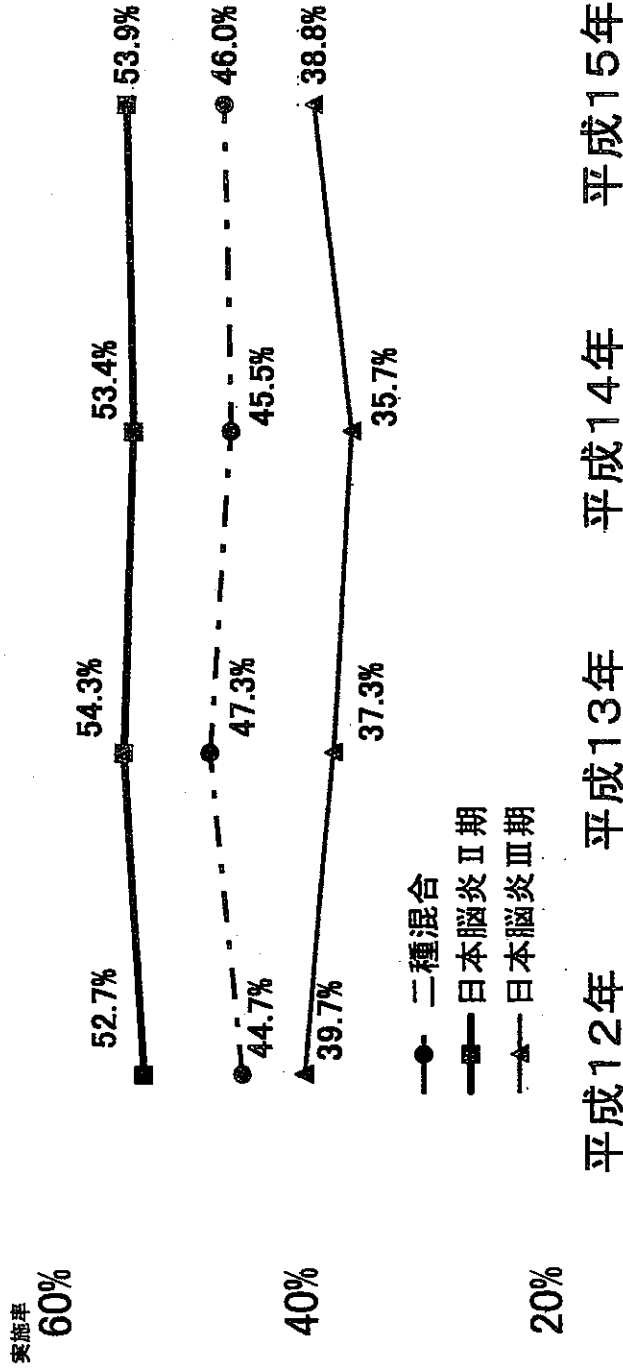
\*1 平成13年9月30日にて発送終了

\*2 昭和54年4月2日～昭和62年10月1日生まれの女性

平成15年9月30日にて接種期間終了 平成14年10月、平成13年1月発送

資料3 足立区医師会感染症サーベイランス委員会資料

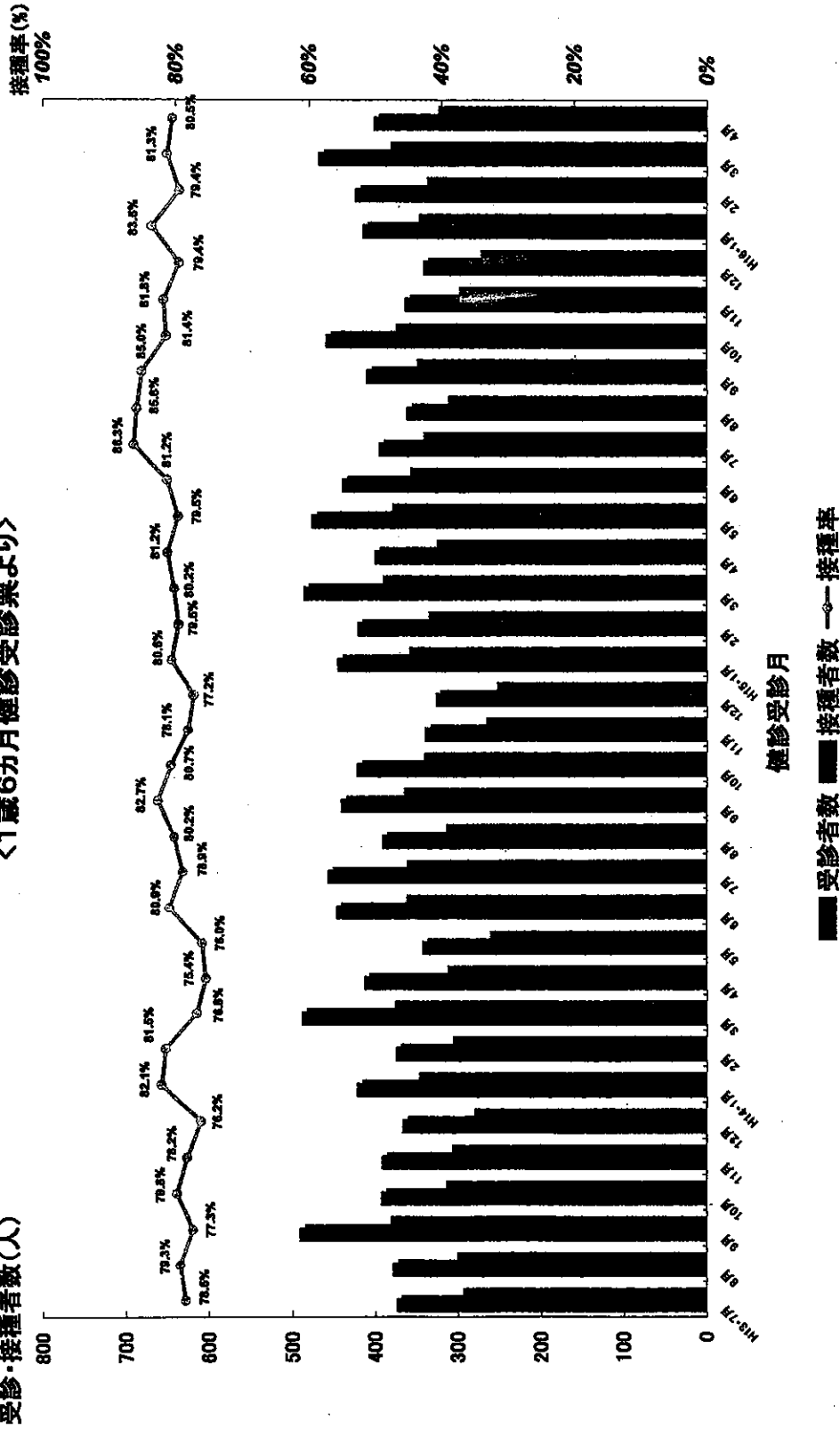
足立区における学童期の予防接種実施率



	二種混合		日本脳炎Ⅱ期		日本脳炎Ⅲ期	
	対象数	実施数	対象数	実施数	対象数	実施数
平成12年度	5,672	2,536	5,405	2,850	5,522	2,191
平成13年度	5,439	2,572	5,591	3,033	5,509	2,055
平成14年度	5,398	2,458	5,526	2,949	5,678	2,025
平成15年度	5,572	2,565	5,559	2,999	5,432	2,107

### 資料4. 足立区における麻疹接種者数(平成13年7月～平成16年4月)

＜1歳6カ月健診受診票より＞



## 資料 5 麻疹勧奨通知(案)

### 麻疹勧奨通知

足立保健所健康推進課

出力日 平成×年×月×日

接種期限 平成×年×月×日

120-8710

足立区中央本町 1-17-1

足立 花子 様

保護者 様

### 接種記録

予防接種の種類	接種の記録
麻疹(はしか)	接種記録なし

上の表はお子様の麻疹の予防接種記録ですが、麻疹の予防接種記録がありません。麻疹にかかったことがなく、麻疹の予防接種をしたことがない方は、医師の指示に従い、できるだけ早く麻疹の予防接種をお受けになることをお勧めします。(注)

(注) 用紙の右上の接種期限を過ぎてから、予防接種を行った場合は、費用は自己負担となります。また、予防接種による健康被害が発生した場合、国の予防接種健康被害救済制度の対象外となりますので、ご注意ください。

資料6 個別勧奨通知(案)

個別勧奨通知

足立保健所健康推進課

出力日 平成×年×月×日

接種期限 平成×年×月×日

120-8710  
 足立区中央本町 1-17-1  
 足立 花子 様  
 保護者 様

予防接種法による予防接種の接種歴一覧表

予防接種の種類		接種の記録
麻疹(はしか)		平成13年5月30日
風疹		接種の記録なし
ポリオ	1回目	平成12年10月10日
	2回目	平成13年4月30日
DPT(三種混合)	1期初回 1回	平成12年11月11日
	1期初回 2回	平成13年1月30日
	1期初回 3回	接種の記録なし
	1期追加	接種の記録なし
日本脳炎	1期初回 1回	平成15年5月30日
	1期初回 2回	平成15年7月1日
	1期追加	接種の記録なし

上記の表はお子様の予防接種法で定められている予防接種の接種記録です。接種記録のない予防接種については、医師の指示に従い、法律で定められている対象年齢(7歳6ヶ月になる前)までに接種してください。(注)

(注) 用紙の右上の接種期限を過ぎてから、予防接種を行った場合は、費用は自己負担となります。また、予防接種による健康被害が発生した場合、国の予防接種健康被害救済制度の対象外となりますので、ご留意ください。



## 保育園における感染症の発生状況と予防対策調査報告

和田 紀之、牧田 邦夫、吉田 忠、松田 光彦、千葉 昭典  
 高木 英行、白井 泰生、八森 啓、宝樹 真理、伊藤 圭子  
 古平金次郎（東京小児科医会公衆衛生部）

### はじめに

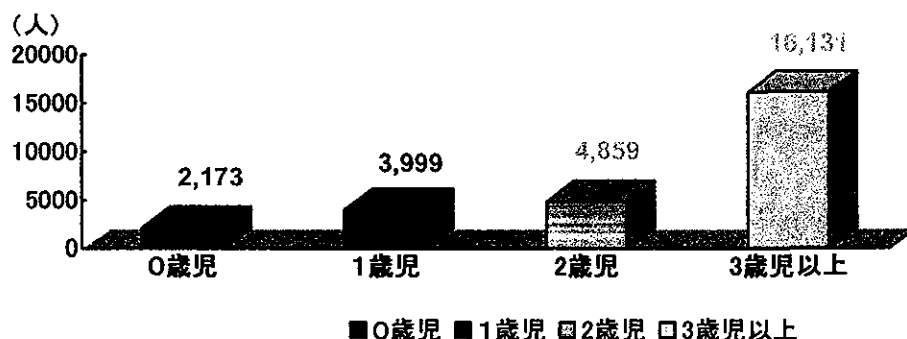
「保育園における感染症の発生状況と予防対策」に関するアンケート調査を実施し、東京及び東京近郊の保育園 275 施設から回答が得られた。その回答を足立区・練馬区・その他の 3 郡に分け分析した結果を報告する。

### 施設情報

保育園の運営形態は、表に示す通り、区立保育園 206 施設、私立保育園 61 施設、公設民営 4 施設、社会福祉法人 2 施設、認証保育園 2 施設であった。年齢別園児数については図 1 の通りである（総園児数：27,398 人）。

	区立	私立	公設民営	社会福祉	認証保育園	総施設数
運営形態	206	61	4	2	2	275

図1 年齢別園児数



### 感染症情報

平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日までの 1 年間における各感染症（麻疹・水痘・流行性耳下腺炎・手足口病・伝染性紅斑・感染性胃腸炎・溶連菌感染症・インフルエンザ）による欠席園児数（罹患園児数）を図 2 に、各感染症別罹患率を図 3 に示す。

本調査結果をもとに、各感染症別に罹患率をまとめたところ、水痘に罹患する園児数が、全園児数 27,398 人対して、3,281 人、罹患率にすると 12%と驚くべき結果となった。

また今回は、麻しんワクチンの接種者数についての調査も同時に行った。麻しんワクチンの接種者数は、全体で 18,258 人が接種しており、接種率は 67.2%であった（図 4）。麻

しんワクチンの接種率は、2002年度の感染症流行予測調査によると、1歳児の接種率が78%、2歳児では92%、3歳児では91%と報告されており、全国平均よりも下回っていた(図5)。罹患率は0.4%と低いものの、今回の調査での接種率を考えると、今後起こりうる流行に対して、しっかりとした対策を講ずる必要があることが示唆された。また、足立区・練馬区・その他の3群に分けた麻疹ワクチンの接種率を図6に示す。

図2 罹患園児数

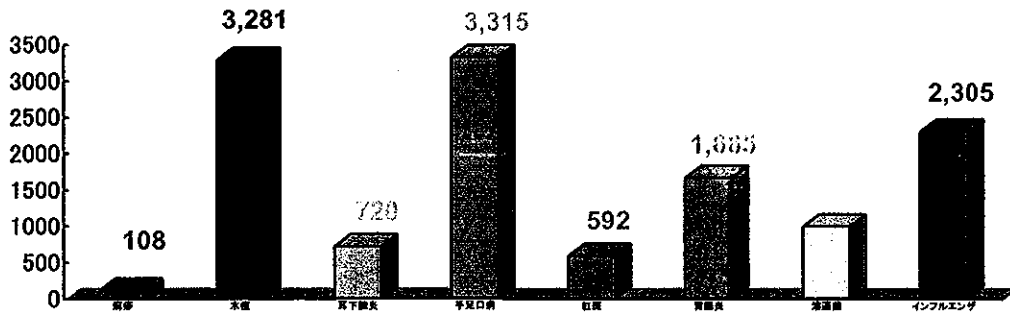


図3 各感染症別罹患率

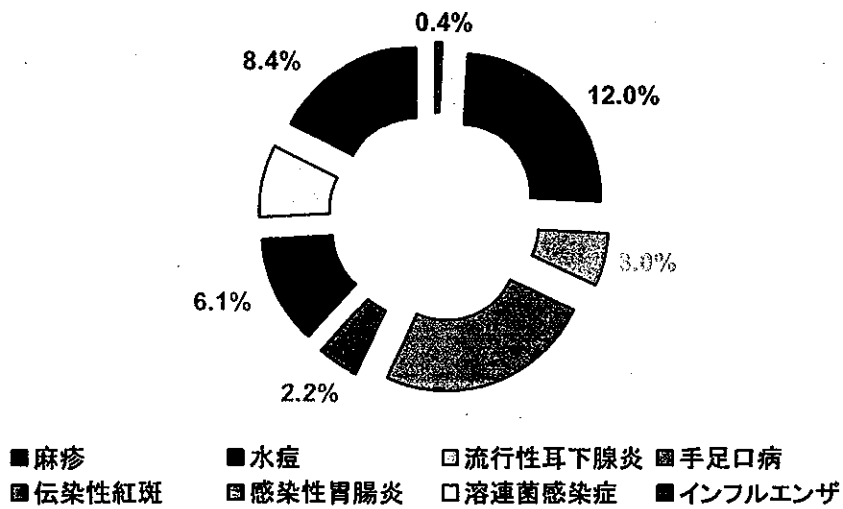


図4 年齢別接種率

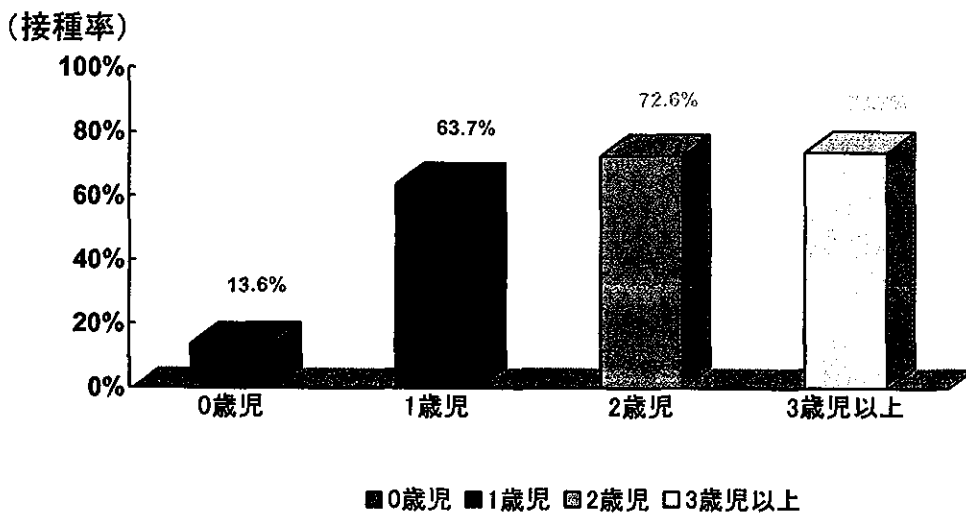


図5 年齢別接種率(全国比)

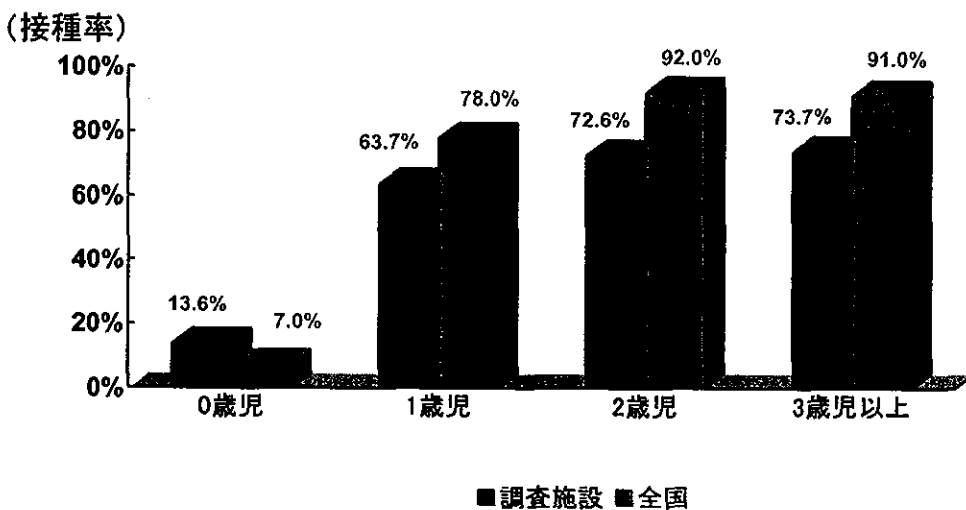
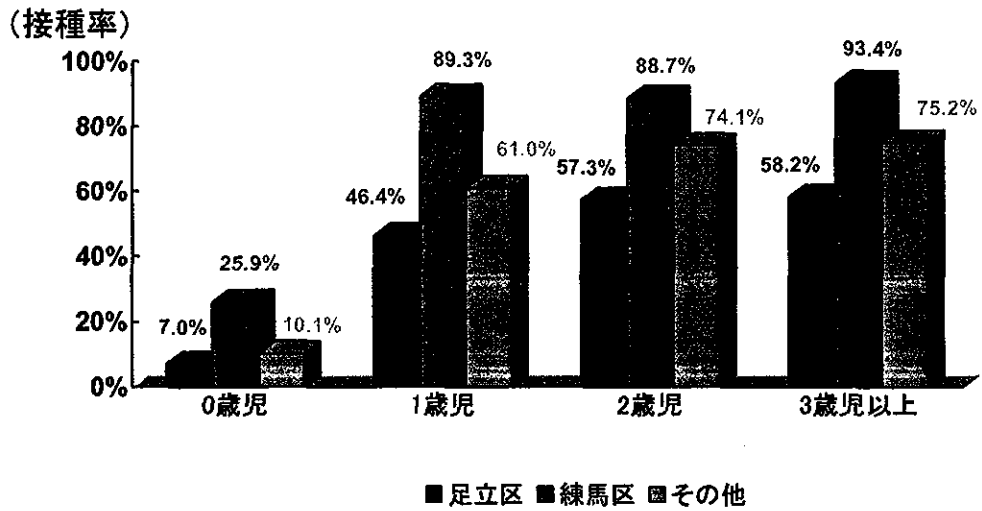


図6 年齢別接種率(地域別)



感染症予防対策

感染症予防対策として感染症マニュアルの有無については、91%の施設で「ある」と回答した(図7)。園児が罹患後、登園する際に、「登園許可証」の提出を義務付けている施設は、全体で88%であった(図8)。

園児の予防接種記録については、95%以上の保育園で予防接種記録を「作成している」との回答であった(図9)。

図7 感染症マニュアル

